

鹿大広報

No.153

April/2000

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会



特集：2000年入学に寄せて

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

目次

■特集 2000年入学に寄せて

新入生の皆様へ	学 長 田中 弘允	3
何を期待して大学へ	学 生 部 長 萬田 正治	4
旅の衣を整えよう	共通教育委員会委員長 山原 芳樹	5
授業について	法 文 学 部 長 辰村 吉康	6
2000年代に向かって	教 育 学 部 長 坂尾 隆	7
思索の面白さと実践の楽しさ	理 学 部 長 井上 政義	8
西暦2000年入学を祝して	医 学 部 長 佐伯 武頼	9
大学とは何か？そろそろ考えよう	歯 学 部 長 大工原 恭	10
新入生に送る言葉	工 学 部 長 赤坂 裕	11
新入生への期待	農 学 部 長 西中川 駿	12
21世紀は君らの出番	水 産 学 部 長 上田 耕平	13
保健管理センターへのご案内	保健管理センター所長 前田 芳夫	14
創造的な知の構築のために	附属図書館長 中山 右尚	15
大学と総合情報処理センター	総合情報処理センター長 皆川 洋一	16

■鹿大生へ

○いま、大学に何が求められているか	額田 勲	17
○21世紀の食を考える	立川 俱子	18

■学内だより

○交通委員会	郡元キャンパスのゲート化について	松永 郁夫	19
○保 健	てんかん	森岡 洋史	23
○随 想	マラッカ海峡共同研究プロジェクト	野呂 忠秀	24
○研究室紹介	医学部公衆衛生学講座	秋葉 澄伯	25
○留学生日記	桜 島	鄭 美京	26
	日本文化に深く浸して	羅 明輝	26
○サークル紹介	学友会（弓道部・ロボット研究会）		27
○鹿児島大学にはこんな（部・同好会）があります。			28
○新任教官紹介			29
○図書館だより			30
○編集後記			30

表紙デザイン

「希望あふれる未知の世界へ、強い意志と情熱をもって飛び込もうとする姿を色で表現した」

教育学部 助教授 美術教育講座 小江 和樹

2000年入学に寄せて

新入生の皆様へ

学 長 田 中 弘 允



新入生の皆様、長い間の努力が実を結び、ここにめでたく鹿児島大学へ入学されましたことを、心からお祝いたします。しかも、今年は新しいミレニアムの最初の記念すべき年であり、大きな意義のある入学であると思います。

また、皆様の御家族、恩師、友人、関係者の方々もさぞ喜んでおられることと存じます。

鹿児島大学は、皆様をキャンパスの主人公として心から歓迎します。

皆様を迎える3つのキャンパスは、いずれも55万都市である鹿児島市の真ん中にあり、市民の方々に開かれています。椰子、ソテツ、桜などが美しく、さんさんと輝く太陽の下で明るい環境が形作られています。ここで生活する人々は、静かに思索し、人々と語り合い、スポーツに汗を流し、文化活動に専念することができます。1万1千人の学生は、友人であり、千百人いる教官は、学問の師であるばかりでなく、人生の師でもあります。

皆様が思う存分活躍する場は整っています。

さて、皆様は今日から大学生です。大学で何を学び、何を身につけるのかを自分なりにはっきりさせることが大切です。目的を持って学生生活を送ることは、勉学や社会活動などへの意欲を高めるために大切であります。すぐそこに来ている21世紀社会は、ますます複雑化し、高度知識社会、高度情報社会となり、グローバルゼーションは限りなく進むことは間違いありません。このように多様かつ変化の激しい社会に出て、生活し、社会に貢献することが皆様の役割であり使命であると思います。

そのためには、卒業後社会人となって一定の職業につかねばならないことになります。私ども教職員の重要な仕事の1つは、そのための手助けをすることです。

人生の目的を持つことは、人生をいかに生きるかにもつながり、また、自分の夢の実現に直接関係します。これらの事柄について、自ら考え、先輩、友人に相談し、あるいは、積極的に教官の意見を聞くことをお勧めします。

一方、人生の目的や目指す職業のいかに関わらず、学んでおくことが必要な部分があ

ります。それらは社会生活を行う上に必要な最小の部分ですが、これには、法律、経済、人文社会、教育、生命科学、理工学、農水産学などがあります。この他に、美術、音楽、文学、哲学、宗教などは、皆様の人生を決める大切な部分であります。

本学は、これらの全ての領域をもっていますので、皆様は共通教育としてこれらを学ぶことができるのです。

最近、共通教育の授業科目の選択で偏りが見られており、私どもは心配しています。理工農水系や生命科学系の学生は、人文社会系の授業をあまり選択せず、人文社会系の学生は理系の授業をとることが少ない傾向にあります。前者にとって学問は、技術に加えて、哲学、倫理学、法律・経済、芸術などの最低限のことは学んでおくことが大切です。また、後者にとっては、高度技術社会で生活するために自然科学系の知識は必要です。大学の授業は、様々な工夫を凝らしており、苦手な学問もわかり易く学ぶことができます。

明日からこれらの幅広い領域を学んでください。初めて垣間見る学問に好奇心を持ち、それらを進んで身につけてください。きっと楽しいものになるに違いありません。

学問の合間には、サークル活動を通じて心と体を鍛えることをお勧めします。人生を生きぬくためには、身体がその人にとって望ましい状態であることが大切であり、身体が財産であると言うことができます。健やかな心を保ち続けることはもちろん最も大切なことです。そのためには、自分を見つめ、静かに考えることが必要です。哲学する時間を充分に作り出すことや、いろいろな人々と対話することを実行することをお勧めします。

21世紀を主体的にかつ楽しみつつ生きていくためには、まず、アイデンティティーの確立が大切になると思います。

美しい自然と豊かな人情に恵まれた鹿児島の地で、夢と喜びをもって大学生活を楽しみ、21世紀に向けて大きな力を蓄えられんことを期待します。

何を期待して大学へ

学生部長 萬 田 正 治



2000年という記念すべき年に、全国数ある大学の中で、ここ南国の地に位置する鹿児島大学を志望し、めでたく入学された新入生の皆さんを、心から歓迎します。

いま皆さんは新学期を迎え、鹿大キャンパスからどんな気持ちで、雄大な桜島を眺めているのでしょうか。重苦しかった受験勉強からの解放感と、自然と人情に恵まれたこの鹿児島で、これからの4年間の青春を過ごせることへの期待感に、胸躍らせているのではないかと想像しています。

ところで皆さんは、何を期待して大学へ来たのでしょうか？皆さんが懸命にめざした大学とは一体どういうところなのでしょうか？入学にあたっていま一度よく考えてみることは、これからの学生生活を過ごす上で、あながち無益なことではありません。いやむしろとても大切なことのように思えます。

大学が何かについては、人それぞれにより、いろいろな切り口があると思いますが、まずは何よりも大学が学問する場であることでは、誰も異論のないところでしょう。さらに大学は家族を支えて働く皆さんの両親をはじめ、大学に期待する多くの国民の税金によって存在しているという事実にも異論はないでしょう。

ここで大学を「科学する」とは言わず、あえて「学問する」と言うのには、それなりに深い意味があります。それは「科学する」は文字通りサイエンスを行うとなりますが、「学問する」はそのサイエンスを通して人間が成長していくという、人間臭さの意味合いが含まれているからです。つまり大学は単に科学するのみではなく、人間陶冶という意味が深く込められているのではないのでしょうか。科学技術がどんなに発達しても、それを扱う人間がおかしくなれば、悲惨な結末が待っていることは、昨今の憂鬱なニュースを見れば自明のことです。また「学問」は「問うことを学ぶ」のとおり、既成の知識を身につけるのではなく、それが正しいかどうかを主体的に問うことに

あります。わかっていることを学ぶのではなく、わからないことを学ぶ（研究）ところに大学の真骨頂があります。

このように考えますと、皆さんが大学において何をなすべきか、その輪郭は自ずから明確になってくるのではないのでしょうか。大学とは学問する場であることを深く受け止めながら、学生生活を謳歌して下さい。

大学には学問の自由がありますが、その自由をはき違えず、納税する国民の皆さんの期待に応えて、人間としてまた社会人としての資質を高めていきましょう。

そのためには毎日の講義、実験、セミナーなどの地道な学習活動は言うまでもありませんが、キャンパス外の実社会にも積極的に出かけ、地域で働き、暮らす人々の諸問題を実践的に学ぶことも大切です。さらに放課後はスポーツや文化などの課外活動にも積極的に取り組み、多くの友人とともに集団生活を通しての人間性を高めて下さい。

学生の皆さんにとって、鹿児島大学はとても恵まれた環境の中にあると思います。例えば、大学キャンパスが都市の中心地に位置しながらも、静寂な居住地を大学近辺に確保でき、通学ラッシュもなく、徒歩や自転車で通学できることは、大都会の大学と異なり交通費や時間を節減できる点で大変なメリットです。また海と山に囲まれ、南方には多くの島々が広がる鹿児島の豊かな自然と、そこで育まれた人情豊かな風土は、皆さんの学問を高めていく上で、大きな財産となるでしょう。

束縛と強制からの解放、つまり自由にまざるものではありません。皆さんはいま自由になれたのです。しかしそれはまだ受験の束縛と強制からの自由でしかありません。何がしたくて、何になりたくて皆さんは自由になったのか？それをつかむことで自由はより積極的で主体的となり、皆さんの大学生活をより充実させるのではないのでしょうか。

まぶしいほど輝く皆さんに期待します。

旅の衣を整えよう



人生はよく旅に例えられます。山あり谷ありの苦楽を伴う長い道程で、途中には色々な節目があります。

今皆さんは、受験という一つの山を乗り越えました。長い労苦が報われて、安心すると同時に大きな喜びに包まれていることと思います。それと同時に、これからの学生生活を充実したものにしようと、色々楽しい計画を思い描いて、胸を躍らせていることでしょう。

私たちも、鹿児島大学に皆さんを迎えることができて、心より嬉しく、誇らしく思います。なぜなら、皆さんは、私たちが受け継いできた長い伝統と人類の知見を伝えることができる次世代であると同時に、これからの世界をどう築いていったら良いか、共に学び一緒に考えながら、21世紀に向かって旅をする仲間だからです。あるいはそれ以上に、皆さんは若い感性と柔軟な頭脳を用いて次の時代を担う新しい価値観や世界観を作り出していくことのできる、無限の能力を秘めているからです。

この広報をお読みになっている今は、すでに新しい出発が始まっている筈です。ですから、いつまでも休んでいる訳にはいきません。お気づきのように、大学における第一歩はそれぞれの時間割を作成することから始まります。大学における時間割は、皆さん一人一人が主体的に決めることが基本になります。自分が受講する科目が隣の友人とは異なることも多くなり、その結果一週間の時間割がそれぞれ違うことも起こり得ます。このことは、21世紀を作り出すという大きな旅の目的は同じでも、皆さんが長い人生においてはいずれそれぞれが違う道を歩くことになる、その最初のステップを踏み出したことを意味しています。

また、授業以外にも沢山の魅力的な計画が並んでいると思います。例えば、サークルや同好会に加入して、同じ志の仲間と一緒に技術を習得し、新しい人間関係の中で苦楽を共にしながら、自分を鍛えることも可能でしょう。あるいは、読書、旅行、映画、音楽等の世界に挑戦して、新しい知識や経験を増やすこともできるでしょう。

いずれにせよ、各人の責任で、自分の人生を決めていくことになります。大事なことは、今皆さんがいる場所は、皆さん自身が選び取ったものだということであり、これから過

共通教育委員会委員長

山原 芳樹

すことになる一瞬一瞬は、一人ずつが選択した貴重な時間の連続だということです。

大学生活における計画の中心は勿論、勉学という柱でしょう。それぞれが選び取った専門分野の勉強に、真剣に取り組んで頂きたいと思います。少しずつ知識と経験を重ねながら、次のステップに進んで欲しいと思います。その際、是非心がけて頂きたいことは、できるだけ自分の世界を広げるという努力です。自分が歩こうとしている道を、可能な限り広い視野から見て欲しいということです。学問の世界では、一方において専門化と細分化が進んでいますが、他方において関連分野との共同作業がますます必要になっています。人類が今日まで築き上げてきた知見に触れて基礎的な体力を身につけるとともに、そこに別な角度から新しい光を当てて見直してみようとする学際的な能力を獲得することが、一層重要になっています。

皆さんが踏み出したのは、今のところまだ最初の数歩です。各人がこれからの人生で運ぶことになる荷物は、きっと少しずつ増えていくことでしょう。その中身と量は、今皆さんが挑戦しようとしている勉学の在り方と大学生活の過ごし方によって決まってきます。専門教育を十全に理解できるだけの基礎的知識を修得して体力をつけることが大事です、同時に、将来どんな荷物に直面しても柔軟に対応できる総合的判断力を身に付けてください。そのためには、色々な分野の講義にも参加して、ある事柄に対して別の異なった立場から検討を加えてみる訓練を重ねることが重要です。アンテナを幾つも張り巡らせて、複眼的に眺めることが求められますし、少しでも臍に落ちないことがあれば人に尋ねてみる勇気が必要です。

人生という旅には、面白くて楽しい出来事も、悲しくて辛い体験も用意されている筈です。そして、一度担いだ荷物はそう簡単に捨て去ることはできません。しかし、そのエキスだけ残して全体の荷物を軽くすることは可能です。沢山の荷物を集めてください。その中から、重要で本質的なものだけを纏めることのできる智慧と逞しさを、長旅に相応しい衣を、学生生活の中で獲得して欲しいと願っています。

授業について

法文学部長 辰 村 吉 康



新入生の皆さんご入学おめでとうございます。厳しい受験戦争を終えられ、これからの大学生活に胸をときめかせておられることと思います。そのような時に苦言を呈するようで恐縮しますが、ここでは大学での授業への心構えについてお願いしたいと思います。

大学審議会が、平成10年10月に「21世紀の大学像と改革方策について」を文部大臣に答申しました。それは大学改革について戦後最大の制度改革を伴う内容となっておりますが、その中で答申は大学卒業をもっと厳しくするよう求めています。

大学設置基準では、学部教育の場合、卒業に必要な単位は124単位以上とし、1単位を取得するには、45時間の学習を必要とすると定めています。したがって1年間で30単位を取得するためには、1週間に45時間学習する必要があるとしているのです。

しかし、平成7年の文部省調査「大学改革の今後の課題についての調査研究報告書」によると、日本の学生が1週間に行う平均学習時間は、「授業への出席時間」が19.3時間、「その他の勉強時間」は7.2時間となっています。実際の学習時間はこれよりもはるかに少ないと予想され、その原因は、主に「その他の勉強時間」の学習すなわち授業時間以外の準備学習や復習が十分なされていないことにあると考えられています。

そこで答申は、予習・復習についての指示も教員の責任であるのに、それが十分に行われていないとして、教員に対して、学生に宿題やレポートを課し厳しく成績評価するよう求めています。また1年間で履修登録できる単位数を制限し、学生が4年間にわたって満遍なく勉強するようにするという制度改革を求めています（本学でも学則上そのようにできるよう改正しました）。もっと「出口管理」を厳しくするよう求めているのです。

ところで、本学の留年者数はいまでも多いほうだと感じています。平成11年5月1日現在、理由の如何を問わず、最短修業年限を超えて在籍している学生は、全学部で787人もいますし、学年途中で進級できなかった学生の数も含むなら、その数は1167人にも達しています。本学では、今までも答申がいうほどやさしい卒業認定ではないのです。

さて大学では大人数の講義も多々あります。そのような授業で学生諸君が私語でも交わそうものなら、教室はウオオーンと鳴り響いてしまいます。残念ながら、大学の講義においても「静かにしなさい」と再三注意しなければならないというのが現状です。居眠りをしている学生もおれば内職（他の講義の準備）をしているものもあります。また演習などで発言の機会を与えられても、ただ黙り込んでしまう学生の多いのに驚いてしまいます。このような状況を見て、学生諸君は本当にもったいないことをしているなあと感じています。

大学の授業を興味あるものにするか否かは、教える側の教員と学習する側の学生の相互作用によるものといえます。われわれ教員の側は今後も授業内容の充実に努力を惜しみませんが、学生諸君も、折角本学に入学され学習する機会をえられたのですから、予習・復習などの準備も怠りなく、生き生きとした授業が展開できますよう協力してください。そして卒業時に悔いの残らないよう、充実した学生生活を送られるよう期待しています。



2000年代に向かって



鹿児島大学の、そして大学院の新入生諸君、入学おめでとう。今年はまさに2000年、この記念すべき年に入学できたということは皆さんのすばらしい前途の予兆であると感じられます。その、皆さんの活躍すべき2000年代とは、どのような時代になるのでしょうか。

2000年代は、今まで我々、人類がかつて経験したことがない程の流れの速い、めまぐるしく変遷していく時代になるであろうと思います。コンピューターやバイオテクノロジーなどを中心とした科学技術の進歩は産業、技術の改革をもたらし、文化や経済、さらに人々の生活様式にまで大きな影響を与えています。そして、これらの進歩や変遷は我々の問題を解決したり、生活の向上をもたらしてくれる一方で、新たな歪を生みだし、より困難な問題を発生させていくように思えます。しかも、このような変遷は益々、その速さを増しており、時として意外な方向に発展したりするので、将来がどのようなになるか予想することは困難であるように思えます。このような時代に、今後必要になる知識や能力を今、身につけておくというのは無理であり、その時々に応じた解決や対処ができるということが必要です。

教育学部の多くの諸君が目指している学校教育の世界も、最近は大変な様変りをしており、皆さんの学校での経験を、そのまま活かせることは少なくなっているでしょう。いじめ、不登校、学級崩壊……などの学校の最近の現象は、その原因には種々雑多のものがあ、基本的な考えはあるにしても、一つ一つの事態に対して答えてくれるような教科書はなく、自分たちが解決に当ってゆかねばなりません。教科の方でも、多数の知識の教えこみではなく、思考能力を育てることの方がより重視され、総合学習などの新しい方法が導入されてきていますが、そこでは正に教育を創出する必要が

教育学部長 坂 尾 隆

できてきています。また教育学部には生涯教育の課程もありますが、この分野は、これから拓かれていく分野であり、したがって、この分野に携わるものは生涯教育のあり方を開拓していく重責があります。以上、教育学部の分野を例として述べましたが、他の諸分野でもおなじような状況があると思います。

このように、産業技術も生活様式も変遷していく時代の中では、それらの新しい面を創出したり、開拓していくことが大切になります。専門家といえ、いままでは、それぞれの道の熟達者でしたが、今からは、それよりも新しい道を創出したり開拓していく人の方がふさわしくなっていくでしょう。このような新しい専門家となるためには、常に自ら学び、工夫したり、研究したりすること続けていかねばならないと思います。大学はこういった自らの学びの出発点であり、大学院はそれをさらに高めるところであるといえるでしょう。

創造性を高めるには、基礎的な知識と理解力は欠かせないものであり、また、チャレンジする気力を高めておくことも大事だと思います。それぞれの専門について基礎から、しっかりと理解すると同時に周辺の幅広さを培っておくことも必要であり、そのためには講義だけでなく、図書館などを使って自ら学ぶことが効果的だと思います。

2000年代の主役としての皆様の前途に最大の期待をしています。



思索の面白さと実践の楽しさ

理学部長 井 上 政 義



新入生の皆さん、受験勉強という義務としての勉学から解放されておめでとう。学問は本来、人に飽きる事のない最も深い悦楽を与えるものです。この学問のもつ素晴らしさを堪能できる素養を培う場が大学です。理学部では、数学や自然科学を学ぶことができ、さらに大学院ではこれらの研究もできます。言うまでもなく、学問は役に立つのみではなく、それは人が人として生きて行くときの楽しみを与えてくれます。ただ、食べて寝るだけであれば、取り立てて人として生きている意味はありません。また、単に物質的な快樂のみを充足する生活もこれと同類です。騒音を撒き散らして、オートバイで駆けるのは、いくらそのオートバイが高級な技術的産物であっても、それは野蛮な行為でしょう。このような行為よりも、静かな湖畔を散策し詩作に耽る方がよほど、文化の高い時の過ごし方です。私たちはこれまで、人の欲望を科学技術の力でかなえようとして、過去の人が想像もできないほどそれを現実化してきました。ある側面をみると、一介の市民が昔の王侯貴族のような贅沢な生活をしています。しかし、人々はそれでも満足せず、社会にはもろもろの歪みが生じています。

21世紀は当然に20世紀の単なる延長ではなく、そこでは人や社会の在り方が再検討されそれによる転換が求められます。それを、主要に担って行く運命にあるのが、君たち若い者なのです。物質的発展のみの追求から、真の意味で深い文化の創造が託されているのです。幸か不幸かは、過剰な知能をもつ存在であり、何もせずに生きることができません。人の有り余るエネルギーをいくらでも昇華できるのが数学や自然科学などの学問です。それは限りなく深く、数千年におよぶ人類とりわけ天才達の知的

エネルギーを吸収しても益々その窺い知れぬ深さは増すばかりです。大学は知のパラダイスであり、人類が築きあげてきた知の体系を系統的に学べるところです。幾多の天才達の思索の所産、実践家などが得た経験的事実などが厳しい批判のふるいにかけられ、整理され精選されたものを数年の内に学ぶことができるのです。これほど、贅沢なことがあるでしょうか。それに、そこでは、生身の教師から直に教わることができ、また志を同じくする者同士が互いに研鑽し合えるのです。僅か半世紀前には、学びたくても学べずに、戦に赴いた学生達がいたのです。君たちの先輩にあたる彼等の境遇を思えば、このような学習の機会に恵まれたことに感謝すべきです。歴史を学ぶとは、このようなことだと思います。

君たち若い人は、人の内面を見つめると同時に、国（世界）の現実を認識しておくことも大切です。危機はある日突然やってくるように見えるけれど、それは着々と準備されているのです。戦後50年が経過し、日本はそれなりの発展をしてきましたが、無謀な公共事業等により国と地方自治体を合わせて約600兆円ほどの（国民一人当たり約500万円）債務を抱えることになっています。見かけの繁栄の裏に、深い欠陥を抱えているのです。このような現実を見据え、夢を抱いて悔いのない青春を送ることが、この日本という国で今を生きる君たちの人生の醍醐味だと思います。



西暦2000年入学を祝して



記念すべき西暦2000年と言う年に鹿児島大学医学部、または大学院医学研究科に入学された皆さん、まことにめでとうございます。いろんな期待を胸に入学の日を迎えられたことと思います。これから始まろうとする新しい世紀に医療・医学について学ぶことを楽しみに、その先の医療の中核となって活躍する姿を想像し、または医学研究の道を極めることを夢見て。私たち、教官も皆さんが21世紀に活躍する事を期待し、そのお手伝いができることを喜びとして、皆さんを歓迎いたします。

私たちの医学部は歯学部と共に鹿児島市の南、桜ヶ丘の陵の上に威容を誇っています。学部入学の皆さんは1年または1年半の一般教育の後、この桜ヶ丘に文字通り上がって来ることになります。医学科、保健学科の専門課程はそれぞれ色々な特徴を持って医学・医療の教育、研究および診療等の実践を行っております。医学科では、リハビリテーション医学、医療情報管理学、医療総合科学、心身医療学等、また難治性ウイルス学研究施設、腫瘍研究施設等の、他には例を見ない講座や診療科、および研究施設があり、それぞれ活躍しています。保健学科は平成10年10月に医療技術短期大学部から昇格し、現在は学年進行中です。本年入学の皆さんは第2期生として中核になるものと期待されています。私たちの医学部は、鹿児島の地域医療の中心として、また、鹿児島地域に根ざす医学医療の情報を世界に発信するセンターとして今後ますます発展する、またしなくてはならない使

医学部長 佐伯 武 頼

命を持っています。そのような使命を達成するには皆さんの若い力が必要不可欠です。まずは、鹿児島大学医学部の一員としての自負と責任感を持っていただきたいと切望いたします。大学院生にとっては当たり前のことですが、学部学生にとっても、自らが学ぶという姿勢が必須であります。もうだれも手足をとって教えてくれることはありません。自ら学ぶ姿勢と意志がなければ、学生とはいえません。常に積極的に何かを追求する事を心がけていただきたいとお願いいたします。それにもましてお願いしたいことは、これまでここに述べてきましたこともすべて皆さんが医学部に入学する目的、大学院で研究する目的は何であるかをはっきりと自覚しているということを前提にしていることを忘れないように。

大学はまた、スポーツ、文化、社会活動などをクラブ活動として行う大変いい環境にあります。学生時代ほど、心に残る時代はありません。じっくり考え、思いっきり身体を動かして青春時代を謳歌して下さい。



大学とは何か？そろそろ考えよう

歯学部長 大工原 恭



新入生の皆さん、入学おめでとう。おそらく皆さんは、合格通知を聞いて以来、目の前の暗雲が晴れたと思いで心ウキウキの状況ではないかと思います。しかし、この広報を手にする頃には、大学とは何か？何をするために大学に入ったのか？そろそろ考えるべきだと思います。

当然大学とは、学問をする所です。そして大学での学問は、自分で勉強することを意味します。これまで皆さんは、教師から教えられたことを覚え、理解することが勉強であったと思います。しかし大学では、極端な表現をすれば先生は何も教えません。むろん、考えるきっかけのようなことは教室で話をするでしょうし、これまで皆さんが知らなかったような物の考え方、知識の一部も話をするでしょう。それを基にして、さらに勉強し考えて、学問を深くしていくのは、皆さん一人一人なのです。このことをはっきり頭に入れておかないと、これから始まる一般教育は「高校と同じだ」あるいは「高校以下だ」ということになり、学問する興味を失ってしまうことになります。それでは大学に入った意味がありません。何か1つの教科でもよろしいから、自分で興味の持てるものを見つけ、自分で考え勉強するように心がけて下さい。勉強する場所、資料は図書館にありますし、それでも分からないことは先生に質問すればよろしい。大学の先生方は、学生から質問を受けるのが好きな人種なのです。むろん先生方でも分からないことは沢山ありますが、そんな時は一緒に調べてくれるはずです。とにかく、最初の1年半の間に幅の広い知識、ものの考え方、そして自分で勉強する習慣を身につけて下さい。

皆さんの中には、いわゆる不本意入学（〇〇学部に行きたかったのに、いろんな都合でXX学部に入ってしまった！）の人もいるでしょう。そういう人は、とりあえず1年間XX学部の教科の1つでもよろしい

から、自分の興味の持てるものを探してみてください。1つでも見つければ、それを通して先が見えてくるはずです。しかし、1年の間に何も見つからなかったら、try againを真剣に考えるべきです。嫌だ嫌だと思いながら大学にいても、何も身に付きませんし、時間の無駄というべきです。そういう人が落第（留年などというきれいな言葉は私は使いません）を繰り返すことになり、さらに時間の無駄を重ねてしまうのです。

最後に歯学部に入學した諸君へ。落第などはせず、1年半後には全員桜ヶ丘キャンパスに進学するように。サークル活動は大いに結構ですが、勉強と両立するように時間の配分をよく考えて。サークル活動に溺れてしまうのは、大学生本来の道から外れていることをはっきりしておきたいと思います。

次に大学院に入學した諸君へ。私に言わせれば、諸君は今人生最良の時期だと思います。学部の学生とは異なり、これからは自分の好きな教科の学問だけに没頭できるのですから。先生から与えられたテーマはむろんですが、それ以外のことについても考え、研究するようにして下さい。そして、今自分がやっている研究と同じテーマは、世界のどこかで、もっと頭の良いヤツもやっていると考え、日夜研究に没頭して下さい。研究成果は、1日でも先に発表した者が勝ちなのです。むろん、息抜きも必要ですが、御成功を祈ります。



新入生に送る言葉



工学部長 赤 坂 裕

入学おめでとうございます。厳しい受験勉強を乗り越えてほっとしているところかと思いますが、あわただしくしている内にすぐに大学での授業が始まります。合格発表から入学までは、ほんとに時間がないですね。出だしが肝心です。大学に入ったらこれをしよう、あれもしたいと色々思い描いて受験の苦難を乗り越えた人もいるでしょうが、勉強以外のまとまった行動計画は夏休みまで待った方がよいでしょう。大学での本分はあくまで勉学に励むことです。そこを履き違えないようにしてください。

さて、共通教育履修案内・シラバスを見ると教養科目の選択の幅が広いことに気がつきます。色々な教養科目を学ぶことは皆さんの人格形成にとって大変大切なことです。自分の専門分野の勉強だけでなく、専門を超えて色々な分野を学んでもらいたいと思います。物理学では補習授業を実施しています。物理学の基礎をきちんと理解しておくことは、これから工学部の専門科目を学んでいく上で必要なことです。受験のためという視点から離れてもう一度学んでみると、意外と面白味がわいてくるかもしれません。また、折角、何々学科に入ったのにその学科の専門の授業が受けられなくてつまらないということにならないように、入学時からある程度の専門科目を受講できるようにになっています。何か分からないことがあったら、それぞれの学科に相談に乗ってくれる先生がいます。自分だけで思い悩まないで相談に行ってみて下さい。

工学部には、今年から京セラ経営学という講座が立ち上がります。この講座では、文系の先生方や経営者の方々に協力しても

らいながら、企業を起こしたり経営したりするのに必要な基礎知識や起業の実体験などを語ってもらいます。企業家には生来の適性といったものもあるのですが、起業に必要な行動力や責任感は努力すれば身につくもので、一面、学力以上に重要な人間力ともいえる能力だと思います。何もしなければ責任も発生しませんが、自ら行動すれば必ず責任が伴います。後者を選ばせる力が人間力です。京セラ経営学という講座をつくっていただいたのは、誰でも彼でも起業を目指せということではなく、むしろ、学力もさることながら行動力や責任感も身につけてもらいたいという趣旨からでした。

入学したばかりで学部卒業後にまでは考えが及ばないかもしれませんが、学部卒業後には大学院があります。現在工学部の卒業生の約40%が大学院博士前期課程に進学し修士の学位を取得しています。このように、工学修士の学位を取得するのは当たり前になってきています。博士前期課程に続いて博士後期課程があります。博士後期課程では、博士の学位取得を目指して一般社会人や外国人留学生と共に学び、研究します。皆さんの中からも、博士の学位取得を目指す元気な人が大勢現れることを期待しています。



新入生への期待

農学部長 西中川 駿



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。西暦2000年という記念すべき年に、いろいろな思いをもって入学されたことでしょう。今はあれもしよう、これもしようと胸を大きく膨らませていることと思います。学部入学の皆さんの中には、今まで苦しい受験勉強をしてきたのだから、うんと遊んでアルバイトをして、別の意味での有意義な学生生活を送ろうと考えている人もいるかもしれません。また、自分の夢に描いた大学と実際の大学とが大きく異なっていると感じる人もいるでしょう。しかし、大学は、高校時代の受け身の勉強ではなく、自らが学ぶところなのです。皆さんはそれぞれ将来の目標をもって入学されたことと思いますが、中には漠然とした気持ちで入学された人もあるかもしれません。将来の方向性というものは、大学で学んでいる中でより鮮明になったり、また、新たに生み出されるものだと思います。私達の農学部は、講義や実験、実習をとおして、自分の将来を考え、それを深めるにふさわしい学部であると思います。大学院入学の皆さんは、学部で培われた知識と行動力をもって、一生の思い出に残るものをつくり上げてほしいと思います。

農学部は、明治42年（1909年）に開校された鹿児島高等農林学校を母体としており、その伝統と歴史に誇りをもった多くの優秀な卒業生を世に送りだしてきました。南九州という恵まれた自然環境のもとで、生物生産学、生物資源化学、生物環境学及び獣医学の4つの学科では、それぞれの分野で幅広い教育と研究がなされています。農業は大昔から人類の生存を支え、人類の発展に大きく貢献してきました。人は初めて稲作を知り、自然環境との調和をはかりながらいろいろな作物を生み出し、また、野生

の動物を家畜化して動物蛋白資源として利用し、最近ではバイオテクノロジーを駆使して植物の新品種を創成し、また、クローン技術を利用した食肉の生産まで、最先端バイオ技術による食糧生産物は後を断ちません。21世紀は、人口の爆発的な増加による食糧危機や自然破壊による地球規模での環境問題など人類の存亡にかかわる深刻な問題が山積みされています。農学はこれらの問題に対処し、人類の健康を保持し、豊かな環境を創造する使命を担っているのです。新入生の皆さんの独創的なアイデアで、これらの問題を解決する方策を生み出してくれることを期待しています。卒業後の進路は就職のみでなく、大学院農学研究科（修士課程）から連合農学研究科（博士課程）、獣医学科からは連合獣医学研究科（博士課程）へ進学する道があります。研究意欲に燃える若い皆さんのチャレンジを期待しています。

これから学部生や大学院生として過ごされる皆さん、輝かしい21世紀を迎える皆さん、この総合大学でいろいろなことを学びとり、自らを研磨し、何事にも積極的に参加し、多くの友人を得て、多様化する社会のニーズに応えられる自分自身をつくり出して、国際化の波に乗れるような人になってください。皆さんのこれからの学生生活が、生き生きとして心豊で有意義なものになるように期待しています。



21世紀は君らの出番



水産学部長 上 田 耕 平

鹿児島大学水産学部、大学院水産学研究所、水産専攻科へご入学の諸君、入学おめでとう御座います。諸君にとって、まさに記念すべき2000年ですね。

水産学部新入生の大学生活の第一歩は、学部附属の練習船を利用した2泊3日の乗船実習から始まります。おそらく今までに体験したことのない小人数の学生と先生、乗組員による規律正しい船内生活を通して、水産学部に入學した実感が沸いてくるものと思われます。運が良ければイルカも船のまわりに集まって諸君の入學を祝ってくれると思います。

簡単に学部の紹介をします。入學時から「水産学科」と「水産教員養成課程」の2つに分かれていますが、1年半経過した後、「水産学科」は水産学全般に渡り広範な知識と技術の教育を目的とした「水産総合コース」、漁業資源の有効利用に関する分野の教育を行う「水産環境コース」および資源生物の生産、高度利用のための水産資源の開発・育成、生物資源の持続生産並びに水産化学、水産食品化学、水産食品の開発に関する分野の教育を行う「水産資源コース」に分かれます。なお「水産教員養成課程」は、水産高校教員免許取得のためのカリキュラムと水産学科のカリキュラムを有機的に組み合わせて水産高校教員としての学識と豊かな人間性、行動力を持った人材を育成します。このように教育コースは3コース1課程ですが、教官は5つの大講座に配属されていますので、学生も3年後期にこれらの研究組織に分属して、4年次に卒業研究を行うことになります。これらの講座名や研究内容、さらに講座へ進むためのアドバイスや卒業後の進路などは学部のホームページで最新の情報を公開しています。ホームページの見方は1年前期の情報活用基礎の授業で教えてくれます。水産学部ホ

ームページのアドレスは、

<http://www.fish.kagoshima-u.ac.jp>

です。

水産学部の最大の特徴は入學時から、この分属時まで、学生10名に対して助言指導教官が1名ずつ付いていることです。学生諸君、分からないことがあったら遠慮せずに先生に相談して下さい。

次に、これからの水産人は国際化に対応できなければなりません。そのために本水産学部では、他に先駆けて実用英語の授業を多く準備しています。

専門教育では、多くの実験・実習（乗船実習やフィールドワーク）があります。低学年のうちに十分耐えるだけの身体を作ってください・・・卒業後も必要です。

諸君が激しい入學試験で合格したと言うことは、諸君の1人がもし不合格であったなら、代わりの1人が合格できたと言うことを忘れないで、意義ある学生生活を送ってほしい。

最後に世界的な人口増加による食糧危機や地球規模での環境破壊等の難問を抱える21世紀は、まさに水産人の出番です。諸君は大学生活を通して、この21世紀に心身ともに十分に役立つ人間に育ってほしい。

大学院および専攻科へご入学の諸君は、これまでに培ってきた力をさらに伸ばすとともに、今一度、自分は自信を持って何が出来るのかをはっきり掴んでほしいと思います。



保健管理センターへのご案内



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さん方、大学生になって、きっと張り切っていることと思います。どうぞ、その心意気を大切に、これからの学生生活を有意義に過ごして下さい。しかし、そのためには、何はともあれ健康でなければなりません。皆さん方の、この健康を守るために、鹿児島大学には保健管理センターがあります。保健管理センターとは、ちょっと聞き慣れない名称かもしれませんが、覚えておくと大変便利です。以下、保健管理センター（以下、センターと略）の業務について述べてみます。

① 日常の一般診療・健康相談・心理相談

カゼやケガ、心配事等、文字通り皆さん方が日常遭遇するいろいろな病気や相談事に、毎日、無料で応じています。皆さん方の先輩達も、最初、センターへやって来る時は、恐る恐るやって来ますが、1度来ると、その後は、2度、3度と、病気の度に、気軽にやって来るようになります。ちなみに、昨年度、何らかの理由でセンターを利用した皆さん方の先輩達は、延人数にして約12,000名でした。皆さん方も安心して、センターを利用して下さい。

② 定期健康診断

また、センターでは、予防医学的立場から、毎年、全学生を対象に、定期健康診断（以下定健と略）を行っています。皆さん方は、毎年、この定健を受けなければなりません。これは義務です（学生便覧：鹿児島大学学則参照）。もしも、皆さん方の中に、「自分は健康そのものだから、定健など受ける必要はない」と考えている人がいるとすれば、それは間違いです。鹿児島大学では、定健の度に、毎年150名前後の人々が、何らかの異常を指摘され、そして、その1/3の人々が要治療者として、専門病院へ紹介され、治療を受けています。その中には、

保健管理センター所長 前 田 芳 夫

肺結核の人も数名含まれています。発見が早かったため、これまでのところ、大事には至っていませんが、過信は禁物です。何事もそうでしょうが、病気では、特に、早期発見、早期治療が肝要です。

③ 特別健康診断・臨時健康診断

さらに、センターでは、実験・実習やスポーツ大会に備えての特別健康診断や臨時健康診断を行っています。しかし、これらはすべて、定健受診者に限られています。従って、定健未受診者は、その年の特別健康診断や臨時健康診断は受けられません。

④ 健康診断書等の発行

この他、センターでは、就職や奨学金等用の健康診断書発行も行っています。しかし、これもまた、定健受診者に限られています。

皆さん方は、これらのことをよく得心して、定健をサボったりすることのないようにして下さい。

センターには、現在、2名の専任医師がおり、それぞれ内科と精神科を担当しておりますが、この他にも、大学病院からは、内科、精神科、放射線科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方が、また、法文学部、教育学部からは心理の先生方が、それぞれセンターに来られ、診療に、あるいはカウンセリングにあたっています。

皆さん方も、センターを上手に利用して、健康で、快適な学生生活を送って下さい。



創造的な知の構築のために



附属図書館長 中山 右 尚

入学おめでとう。大学生活が始まります。皆さんの充実した日々が展開して、皆さん一人一人の目的がより良く達成されることを期待します。

我が鹿児島大学の附属図書館は、中央図書館と桜ヶ丘分館、水産学部分館からなります。本学の学生・院生はいずれの図書館も利用することができます。

共通教育を多く受講する1～2年次の期間に大学図書館の利用に習熟することをまず奨励します。

大学で学習研究のために用いる〈知識〉(学術情報)は、拠り所つまりはその知識・情報は何に記載されているものかが、明らかでなければ有効ではありません。たとえば、レポートに書くことも、ていねいにそれは何という辞書にあるのか、あるいは研究書にあるのかを明記することによって、有効になるのです。辞書にあること、教科書にあること、研究書にあることを、自分の見解のように書くこと、述べることは、情報に対する主体性を持っていないことの証です。学的ということは、極言すれば、誰もがそのレポートの通りにその辞書に当り、その教科書に当り、その研究書に当って、レポートの筆者の論理や実験・実証に従えば、同じ結論に到るということです。

図書館を利用することは、そういう学的な操作に習熟することと同義です。

辞書の引き方、研究書・雑誌の探し方などなどは、それぞれの専門領域で特色があることでしょう。各自の専門や課題にしたがって、確実に信頼できる優れた情報を自

在に選択して、自分の論を構築して行けることが、大学における学習研究です。

図書館はそういう皆さんの学習研究への支援やサービスをするところです。上手に活用するためには、図書館が行なうガイダンスやオリエンテーションに主体的に参加し、また、各講義・演習などでの先生方の教示に良く耳を傾け、実際にその通りに図書館を利用してみることです。

ともあれまずは、図書館に入館してみましよう。特に学部入学の皆さんは、大学の図書館というものを体感することからはじめてください。

勿論、図書館は皆さんの読書生活に寄与する役目も負っています。すなわち、豊かな教養を育むためにも大いに利用してほしいと思います。21世紀を創造して行く諸君にとって、豊かな教養は特に大切だと考えます。大学院の諸君にも、そのことは特に期待したいことです。各自の専門外の世界を読書によって逍遙することは、一見無駄なようですが、実は大事なことだと思います。急がば回れ、功を焦らずに無駄を承知で遊んでみることを勧めます。

本学図書館は、「概要」、「案内」、館報「南風」などを刊行しています。よく目を通して役立ててください。また、電子図書館化を進めているので、いろいろな検索や利用が年を追って多彩になってきています。高度な利用を期待しています。ホームページもぜひのぞいてみてください。

皆さんの一人一人の〈創造的な知の構築のために〉、附属図書館は支援を惜しみません。

大学と総合情報処理センター

総合情報処理センター長 皆 川 洋 一

新しい年度が始まり新入生が加わりました。在学者の多くはひとつ進級されたものと期待しています。年度初めは現役である限り、誰でも新たな目標を掲げます。受験勉強から解放された新入生にあつては、ことさら大きな転機でしょう。多くの人々が学生のあるべき姿を語ります。しかしながら、経験から判断すると、言葉は易しくても新入生には理解し難いアドバイスでもあるのです。

大学は主体的な目的を持ち、能力と実践力を備えた学生、別な表現をすれば、自らの適性を見出し、それを生かす専門領域を捜そうと努力する学生が入学してくることを前提として構成された組織です。それらの条件が満たされないと、さまざまな問題が生起し、機能しなくなります。周りの人々の発言を慎重に咀嚼してください。ひとはそれぞれ主体的に人生の目的を持たねばなりません。しかしながら、大学はもちろん、誰もそれを教えることができないのです。

総合情報処理センターはパソコンや大型計算機の利用の実践、およびネットワークの利用の仕方を学ぶ施設です。コンピュータシステムは複数のサーバ、およびパソコン端末を有し、学内ネットワークに接続されています。このネットワークに全学の研究室等に設置された約6600台のパソコンが接続されています。また、学内ネットワークはインターネットと接続されていますので、世界中のネットワークと繋がっています。

共通教育科目の情報活用基礎科目を受ける学生のために、共通教育棟に185台のパソコンが設置されています。総合情報処理センターの端末室に、約50台のパソコンを設置し

たふたつの端末室があります。また、2年生以上の学生が自由に利用できるオープン端末室が3室あり、合計約60台のパソコンが設置されています。

これらのパソコン端末を利用して、総合情報処理センターの各種アプリケーション・ソフトウェアの利用、インターネットの利用、および学内に配信されているBBCやCNNのニュースの聴取が可能です。それぞれ英国英語、および米国英語のアクセントで世界のニュースを語ります。日本の放送と社会の切り口が異なる、新鮮な問題提起を伝えてくれます。しかしながら、コンピュータは学生が何を学び、何を為すべきかを直接教えることはありません。調査すべき事項、為すべきことが明確なものに、実現するための情報や手段を提供します。充実した学生生活を送っている学生との関わりが大きな組織が総合情報処理センターです。

人間の生活は組織のさまざまな制約に拘束されています。コンピュータやネットワークは約束事を理解すれば、自らの命令を確実に実行します。時として、世界中の人々が共通に利用する社会であることを忘れさせ、目前の忠実な端末の中の仮想の空間に居るとの錯覚を与えます。コンピュータシステムやネットワークを利用する上での規則やモラルを十分理解して利用してください。ネットワークの中で自らの所属や名前を名乗って利用の許可を得ているのです。総合情報処理センターは相手が見えない社会における行為を学ぶ施設でもあります。

教員2名と職員6名の小さな組織です。身近な存在となって頂ければ幸いです。

いま、大学に何が求められているか

みどり病院 額田 勲



1940年神戸生まれ。京都大学薬学部、鹿児島大学医学部卒業。健和総合病院（北九州市）などの勤務を経て、80年より、神戸みどり病院院長。89年より、神戸生命倫理研究会代表。著書に『終末期医療はいま——豊かな社会の生と死』（ちくま新書）、『孤独死、被災地神戸で考える人間の復興』（岩波書店）など。

阪神大震災の被災地神戸でもう一つの地震といわれた、約三年前の少年Aによる連続児童殺傷事件、そしてまた京都の小学校校庭での男児殺害という類似の事件と、なぜこうも被害者、加害者共に青少年というようなおぞましい悲劇が陸続と発生するのだろうか。あらためて、若き世代の心にいま何が起っているのかと考えこまざるをえない。

当然、青少年が凶悪犯罪に及ぶ動機に言及せねばならないが、六十年代には、生活苦にかかわるものが圧倒的であった。七十年代は後述するとして、一昔前の八十年代には、校内暴力などから派生したと考えられるものが多く話題となった。そして最近の九十年代以降は、旧世代が首をかしげる、一見動機の不明瞭な“理由なき”犯行が急増している。

そこで、これら青少年犯罪の変遷に合わせて、彼らを取り巻く社会状況の変貌を考察してみれば、彼らをめぐる人間関係がどんどん切り崩されていることに気付く。まず六十年代には、高度経済成長による都市部への人口の流入で、極端な過疎過密を生じ地域の崩壊が顕著となった。次いで人間関係破壊の巨大な流れは学校を侵食、様々な否定的な現象を引き起こし、軌を一つにして家庭崩壊のこともしきりに叫ばれるようになった。

ということになれば、七十年代に話を戻す必要がありそうだ。六十年代以降、若者たちが大学の在り方、社会の矛盾に疑問をぶつけた時期があった。ただし世の大人たちは、彼らの要求を学園紛争と一くくりにして力まかせに抑圧、青少年を檻の中に囲い込むことに腐心した。以後、この社会は学生運動に煩わされない平和な時代を享受するようになったかに見えるが、皮肉なことにいまや少年A、京都の犯人と目される若者などはともに「学校への恨み」と口をそろえる。

閑話休題。先日、“友あり、鹿児島より来る”というごとく、同窓のK医師が来神した。震災後装い新たな神戸の三宮に案内して寿司をつまんだ後、二軒ばかり飲み歩いた。

彼も五十才を目前にしていたからか、話数の多くは来し方であった。彼はどの店でも話が興にいたると、「こんな澁澁と面白い人生がおくれて……」と自らの半生を自賛する。期せずして二人の話は自然に、「なんといってもかつての医学部での人間関係のすばらしさ……」というところに落ち着いて、あれやこれやの先輩、同輩、後輩の話に花を咲かすこと

になった。隣席からなんと「戦争を知らない子供たちよ」と懐かしいカラオケが流れていたが、ここは一番“あんたの時代はよかったね……”というBGMでもよかった。

その時私は、三十年近く前、K医学部長から呼び出しを受けた学生時代のひとこまをふと思い出していた。数日前、学生のグループ同志の衝突で相手方に重傷者が出て、警察の介入必至という状況で、身に覚えは十分にあった。停学ぐらいの叱責を覚悟して学部長室に出かけたが、なんとK先生は「若い時期には少しぐらいの行き過ぎがないとなー」といった意味のことをにこりともせずに言う。

思わず私は、そのふところの深さに脱帽。桜島など風土に育まれたおおらかな人間学の真髄にふれた思いで、同時に大学で学生運動についてこせこせと苦言をもらす教官のほとんどいない意味を初めて知った思いであった。かくして以後、私はひたすら豊かな人間関係こそと心したおかげで、K医師のような友を何十人もえて大学を巣立つことができた。論より証拠、三十年近くをへた現在も、鹿児島を遠く離れた神戸の地で同窓の友人八人と共に地域医療にかかわる日々である。

ところで、最近私は、高度技術、情報社会のゆえに我々の時代の何十倍、何百倍の知識の詰めこみに汲々とし、その反動というごとくコンピュータとエレクトロニクスの画像上の擬似体験や仮想現実には埋没せねばならない後輩たちのことが多少気にかかっている。ひょっとして鹿児島でも社会の構造的汚染にまみれて、学生運動を知らない子供たちと旧世代の絶望的な断層がくつきりとして、豊かでおおらかな人間関係など古き良き時代の神話と化してしまったのではなからうか。

そこで飛躍をあえてして言えば、わが鹿児島大学が、今後独立法人化など激しい嵐に際して銘すべきは、この高度技術・情報社会において、目を追って孤立を深めいく若き世代の直面する矛盾にどう立ち向かうかということではなからうか。おそらく東京、大阪、福岡など大都市の大学の殺伐とした状況で、人間関係の再構築を目指すなどとうてい望みがたい展望だが、鹿児島の地でそうした価値を創造することは決して夢ではない。

「学問は人間関係を強める一つの方法であり、人間関係は学問を発掘させるきずなである」といったイズム（学風）の確立は、十分に可能と思えるが、どうであろうか。

21世紀の食を考える

社団法人鹿児島県栄養士会 会長 立 川 俱 子



略歴

1953年 鹿児島県立大学
短期大学部生活
科学科卒業
1954年 鹿児島大学医学
部勤務
1993年 同大学栄養管理
室長を退官
現在、同大学医学部、医
療技術短期大学部、鹿児
島女子短期大学非常勤講
師の他、日本栄養士会
理事、全国病院栄養士協
議会長を務める。

栄養・食生活は健康を維持・増進するために欠くことのできない営みであると同時に、社会的・文化的な要素でもあり、毎日の楽しみや生活の質（QOL）とも深く結びついています。

日本人の食生活は第二次大戦後、大きく変化すると共に、国民の生活水準の向上や医学・医療の進歩により、感染症や脳出血が減少し、いまや日本は世界一の長寿国となりました。

しかし、一方で、がん、心疾患、脳卒中、糖尿病、高血圧、高脂血症などの「生活習慣病」が増加し、さらに「寝たきり」や「痴呆」のように高齢化に伴う障害も増加しています。

また、食生活を取りまく社会環境の変化に伴い、朝食欠食率の増加、加工食品や外食への依存、食卓の団らんへの喪失、過度なダイエット志向なども見受けられます。

去る2月24日発表の「平成10年国民栄養調査」結果によると男性では肥満の増加が著しい一方で、若年女性のやせの増加も明らかになり、特に現実にはやせているのにさらにやせたい傾向に進むという誤った認識をもっている女性が多いことが判明しました。

この男女体型の両極化傾向に対して、厚生省では適正体重の認識を強く呼びかけています。肥満の判定に用いられるBMI〔体重kg／（身長m）²〕の平均値を昭和54年と比べると、男性ではいずれの年代でも上回っていますが、女性では15歳～49歳までは下回っています。なお、BMIは22を標準としていますが、日本肥満学会では18.5未満をやせ、18.5以上25未満を正常、25以上を肥満と定めています。

厚生省では「全ての人が健康で明るく元気に生活できる社会」の実現を図るために、壮年死亡の減少と寝たきり、痴呆の期間の

減少（健康寿命の延伸）を目標に新しい国民健康づくり運動として「健康日本21」を策定しました。

この「健康日本21」の特徴は、国民1人1人が21世紀を障害なく元気に生きぬくための目標値を掲げ、個人はもとより国全体を挙げて目標を達成しようとしている点です。

目標値は科学的、医学的に有効であるだけでなく実行可能なものでなくてはならず、設定に当たっては、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養こころ」「タバコ」「アルコール」「歯科」「糖尿病」「循環器」「がん」の9つの分科会が設けられ、合計55人の委員が膨大なデータを集約・分析してまとめたものです。

栄養・食生活についての目標設定は14項目にわたっています。また、食生活指針も厚生、農林水産及び文部の3省が共同で検討、3月24日閣議で了承されました。

鹿児島では昨年、NPO第1号として「健康ハート21」を設立いたしました。

その定款に「この法人は県民に対して21世紀に増大することが予測される生活習慣病とくに循環器系疾患の予防と撲滅のための啓発、健康教育、研究支援及び実践活動を行い、もって県民の健康増進及び人と環境にやさしい地域社会の実現に寄与することを目的とする」とあります。1986年から活動してきた「健康ハート運動」を母体としてこの目的に賛同する個人・団体で「健康ハートの集い」「ハートウォッチング」「親子心臓教室」「ヘルシーディナーの夕べ」「医師と歩こう！チャリティウォーク」など予防活動を展開しています。

21世紀を健やかな活力ある社会とするために私達1人1人が「健康を創る」という意識改革こそ今必要なことと考えます。そして心豊かなQOLを求めて努力したいものです。

学内だより

郡元キャンパスのゲート化について

鹿児島大学郡元地区入構ゲート利用者団体運営委員会委員長 松 永 郁 男

平成11年7月1日の第678回の評議会で「郡元キャンパスのゲート化について」が審議され、ゲートによる車両規制が決定しました。さらに、9月2日の第680回の評議会で「郡元キャンパスのゲート化の実施体制について」が承認され、これを受けて本委員会は、平成12年4月1日の実施を目標に、具体的実施作業を始め、下記の「鹿児島大学郡元地区入構ゲートの運用に関する実施要項」、「ゲート利用料金負担額表」を決定しました。

つきましては、教職員、学生各位のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

鹿児島大学郡元地区入構ゲートの運用に関する実施要項

平成12年2月10日制定

1. 趣 旨

この要項は、鹿児島大学郡元地区のゲート化に伴う、管理運営に必要な事項を定める。

2. ゲートの機種及び設置場所

ゲートの機種は遮断機方式とし、次の個所に設置する。

- ① 農学部門 …… 入構用1ヶ所・出構用1ヶ所
- ② 附属図書館門 … 入・出構用1ヶ所
- ③ 教育学部門 …… 入・出構用1ヶ所

3. 稼働時間

ゲートの稼働時間は、原則として24時間とする。ただし、平日、車両の混雑等が予想される時間帯は門衛が配置され、ゲートとの併用により対応する。

無人ゲート稼働時間

- ① 土曜日、日曜日、祝祭日、年末・年始の間
- ② 門衛が配置されない時間帯

門衛の配置時間

- ① 平日の8時00分から17時30分

4. 入構及び出構方法

車両による入構は、原則として入構許可証とパスカード又はリモコン（以下「パスカード等」という。）によるものとする。ただし、リモコンによる入構は、公用車、身障者等、

鹿児島大学郡元地区入構ゲート利用者団体運営委員会（以下「運営委員会」という。）が、必要と認めた場合に限るものとする。

出構は自動解除されるため、パスカード等の使用は必要としない。

5. パスカードの有効期限

パスカードの有効期限は、毎年4月1日から翌年の3月31日までとする。ただし、年度途中における申請については、申請のあった月から当該年度の末日までの間とする。

6. 入構許可申請とパスカードの購入手続き

入構許可の申請を行い入構が許可された者は、パスカードを購入するものとする。

入構許可証の発行及びパスカードの取得の手続きは以下の手順による。

- ・教職員及び学生は、当該部局の担当係に所定の様式により入構許可の申請を行い、承認書の発行を受けるものとする。
- ・業者は、経理部契約室管理係に所定の様式により入構許可の申請を行い、承認書の発行を受けるものとする。

承認書の発行を受けた者は、鹿児島大学生生活協同組合に承認書を提出し、別途定められたゲート利用料金を納め、パスカードを購入するものとする。

パスカードを購入した者は、当該部局の担当係に承認書を返却するとともに、パスカードを提示して、入構許可証の交付を受けることとする。

7. パスカードの紛失及び取消

パスカードを紛失・汚損した場合は、新たに申請手続きを行い、パスカードの実費を支払って、再交付を受けることができる。

不正手段でパスカードの取得及びパスカードの不正使用、その他パスカードに関する違法行為が発覚した場合は、原則として、次年度以降パスカードの発行を行わないものとする。

8. 臨時に入構する者に対する措置

学外者及び郡元キャンパス以外の教職員・学生で、平日臨時に入構を必要とする場合は、門衛の指示によるものとする。

郡元キャンパスの教職員・学生で平日緊急に入構を必要とする者は、門衛の指示によるものとする。

門衛が配置されない時間及び土曜・日曜・祝祭日等の入構については、無人ゲート化となるため、事前に用務先と連絡調整を行い、用務先で対応するものとする。

郵便車両及びタクシーについては、平日は門衛で対応するが、夜間・土曜・日曜・祝祭日等についての対応は行わない。

門衛が配置されない時間帯及び土曜・日曜・祝祭日等の附属図書館利用者については、公共交通機関等の利用を推奨することにより、原則として対応は行わない。

9. 緊急車両・緊急時に対する措置

予め郡元キャンパスを管轄区域とする消防署にパスカードを配付しておくものとする。

なお、緊急を要する場合は、ゲートバーの緊急突破もあり得る。

門衛が配置されない時間帯及び土曜・日曜・祝祭日等におけるゲートの故障、その他特別にゲートを開くことが必要とされる事態に対応するため、臨時の保守を警備会社に委託するものとし、予め定めた緊急連絡網により対処するものとする。

10. 大学祭等イベントに対する措置

公開講座・学会・研究会等の行事については、主催者は当該部局の担当係に事前に申し出てパスカード等の貸与を受け、主催者側で対応するものとする。なお、ゲートの開放を行う必要がある場合は、必要最小限の時間、ゲートを開放できるものとし、主催者側で責任をもって対処するものとする。

大学祭・入学試験等大学として行う行事については、必要な期間ゲートを開放できるものとする。

11. ゲート利用料金

ゲートの設置・維持管理並びにパスカード発行費用として、別表のとおりゲート利用料金（以下「料金」という。）を定め、その取扱いは以下のとおりとする。

- ① 料金は、年及び月単位とし、日割計算は行わない。
- ② 料金は、前年度の決算を基に、運営委員会で定めるものとする。
- ③ 前年度の余剰金は、次年度のゲート維持管理費に充当するものとする。

12. 二輪車及び自転車

この要項は四輪車に適用するものとし、二輪車（原動機付自転車・自動二輪車）及び自転車には適用しないものとする。

13. 維持管理と業務委託

ゲートの維持管理業務及びパスカード発行等に関する業務は、鹿児島大学生協同組合に委託することができるものとする。

14. 事故の責任関係

運営委員会は、ゲートに関し、施設賠償責任保険（対人・対物）を付保するものとし、ゲートの賃貸借契約には、装置の保守及び動産総合保険を含むものとする。

ゲートの誤作動に起因する事故と判断される場合は、ゲート機器のメーカー責任により補償されることとなる。

運営委員会は、入・出構ゲートに関する事故については、一切責任を負わないものとする。

15. その他

この要項に定めるものの外、必要な事項は別に定める。

付 則

この要項は平成12年4月1日から実施する。

ゲート利用料金負担額表

区 分	負 担 額
鹿児島大学郡元地区交通規制実施規則及び同細則に基づき一般・特別（期間指定、曜日指定）・業務用・公用車のいずれかで、入構を許可された者 教職員 非常勤職員（パート職員含む。） 学生（科目等履修生、研究生含む。） 大学関係業者 生協職員及び生協関係業者 本学の公用車 共通教育等を担当する郡元キャンパス以外の教官 郡元キャンパス以外の学内非常勤講師及び学外非常勤講師 教職員・学生の身障者及びその送迎者 その他	年額8,000円 月額 700円 免 除
鹿児島大学郡元地区交通規制実施規則及び同細則に基づき臨時的に入構が許可された者 期日指定を受けた教職員・学生 本学に用務のある学外者 会議等に出席する郡元キャンパス以外の教職員・学生 緊急自動車（消防車・救急車・パトカー等） 郵便車両、銀行、宅配便、タクシー等 他官庁の公用車 身障者及びその送迎車 その他	免 除

※各部局で公用・貸与用に使用するパスカード・リモコンは、実費負担とする。

※年度途中の申請については、申請のあった月から月額料金を適用する。

※曜日指定と期間指定は、年額若しくは月額料金のいずれかを適用する。

【その他料金適用除外の取扱】

※教職員・学生の期日指定については、事前に当該部局の担当係に申し出てパスカードの貸与を受けるものとする。

※非常勤講師は、平日は門衛の指示により対応するが、特にパスカードの貸与を希望する者及び夜間に入構する者は、予め当該部局の担当係に申し出て、パスカードの貸与を受けるものとする。

※教職員・学生の身障者及びその送迎車は、予め当該部局の担当係に申し出て、パスカード等の貸与を受けるものとする。



てんかん

保健管理センター助教授

森 岡 洋 史



てんかんとは、意識消失およびけいれん発作を主な症状とする疾患の総称で、脳の神経細胞が過剰に興奮することにより起こります。てんかんの原因は、脳に特定の障害が見つからない原因不明のものと、頭部外傷、脳腫瘍、脳卒中など脳の器質的障害（脳にできた傷）が原因で起こるものがあります。また、一酸化炭素中毒や慢性アルコール中毒などでも起こります。原因不明のものの殆どは20歳までには発病するので、それ以降の発症は、器質的な原因を考える必要があります。

ところで、てんかんというと普通、「全身をひきつけ、卒倒し泡を吹く」という状況が思い浮かぶでしょうが、実はてんかんの発作には他にもいろいろあるのです。大きくは二つの型に分けられます。一つは部分発作、もう一つは全般発作です。部分発作とは、脳の一部分にてんかんの原因となる場所があるものをいい、その部位だけに異常な興奮がとどまれば、それに関連した症状がでます。例えば、前頭葉ならば精神症状、運動を司る神経細胞が集まっている付近（運動野）なら片方の手や足あるいは顔面のけいれん、後頭葉ならば幻視といった具合です。その際意識も失われません。一方、全般発作は脳の異常部位が特定できず、左右の脳全体が同時に過剰興奮するものをいい、多くは意識が消失します。

では、てんかんはどのようにして診断するのでしょうか。一番大事なのは、発作の出現を確認することです。医師が発作の場面に会うことは少ないので、周りでみていた人から詳細を聞き判断します。次に脳波です。脳波検査でスパイク（刺波）や異常な徐波（遅い波）を確認します。てんかんの患者さんだからといっていつも脳波が異常を示すわけではないので、繰り返し検

査したり長時間測定したりする必要もあります。その他、念のため頭部CT、MRI検査などを行います。なお、一回きりの発作ではてんかんとはいいませんし、脳波が異常だからといって、発作が一度もなく健康である人をてんかんといわないのも当然です。

治療は、薬物治療が主体となります。発作の型（部分、全般）により使用する薬がだいたい決まっているので、正しい診断を受けることが大切です。てんかんの診断が確定すれば、気長に、つまり数年の単位で服薬を続ける必要があります。もちろん発作もなく脳波も正常化すれば薬を徐々に減量して完治に導くことは可能です。

日常生活ではどんなことに気をつける必要があるのでしょうか。薬を正しく服用することは勿論ですが、規則正しい生活、特に睡眠を十分にとることが大切です。また、高いところへ登ったり、一人での水泳、車の運転などは控えます。発作の種類によっては、テレビ画面に反応したり、激しい運動をしてはいけないものもあるので、医師からよく説明を受ける必要があります。では、発作の場面に居合わせた人はどうしたらよいのでしょうか。まずは、慌てないことが大切です。発作は、数分以内におさまり、命にかかわるようなことは全くといっていいほどないので、安全なところに横にして、意識が完全に戻るまで傍にいて心掛ければ十分です。無理に抑えつけたり、舌をかまないように口の中に何かを入れるのはかえって危険とされています。

てんかんは、発作を繰り返すとさらに発作が起こり易くなるので、ぜひともてんかんの専門医に診てもらいたいものです。

マラッカ海峡共同研究プロジェクト



マラッカ海峡は全長千km、最も狭い所で幅30kmの、マレーシア・インドネシア・タイ・シンガポールに囲まれた細長い海峡である。この国際海峡は、毎日六百隻もの船舶が往来する海上交通の要所で、中近東から日本に運ばれる原油の9割がここを通ることから、わが国の経済活動の生命線でもある。

本海域では、陸上の赤土や船舶からの油もれの影響で、過去20年間に9割の珊瑚が死滅し、マングローブの枯死や干潟の破壊も著しい。このような汚染の影響は、沿岸諸国にとっては大きな社会問題となっているが、研究面での取り組みもさらに遅れている。

マラッカ海峡研究所の設立

このマラッカ海峡の自然と環境を総合的に研究するために、プトラ・マレーシア大学 (Universiti Putra Malaysia; UPM) は、「マラッカ海峡研究所」の設立を計画し、1997年にその支援を日本の国際協力事業団 (JICA) と鹿大水産学部へ要請した。

マレーシアの首都クアラルンプールの郊外にあるUPMは学生数3万人の総合大学で、かつてはマレーシア農科大学と呼ばれていた。このマレーシア農科大学が海洋水産学部へ大学院を設立しようとした15年前に、鹿大水産学部は5年間にわたって毎年数名の教官を派遣し、留学生も多数受け入れた。今回のマラッカ海峡研究所設立の支援要請も、その実績がマレーシア側に評価されたものである。

マラッカ海峡研究所の設立にあたり、UPMは理学部や農学部の協力教官30名からなる研究体制と3階建てのビルを用意した。一方、日本側からは鹿大の教官を中心に毎年数名が5年間の共同研究のために派遣される。

マラッカ海峡の共同研究

通称「マラッカプロジェクト」と呼ばれるこの共同研究プロジェクトでは、マラッカ海峡の海流や栄養塩の分布、プランクトンや魚類など海洋生物の生態、マングロー

水産学部水産学科教授 野 呂 忠 秀

ブや珊瑚・藻場・干潟の現状について調べられる。さらに、農薬や重金属、廃油汚染の実情や、海洋汚染が生物や人間生活に与える影響についても研究される。

筆者は1998-99年に派遣され、マラッカ研究所の設立に携わったが、その運営方法は鹿大の多島圏研究センターを手本とした。

研究面では、マレーシア水産庁の調査船(80t)を借りて海洋調査を2回実施した。この調査船は、大きさも鹿大練習船がごしま丸の十分の一程しかなく、設備も不十分な上に、乗組員の質に問題もあり、マラッカ海峡内に設けた30観測定点の生物や海水を採取するのに2週間も要した。また、採集した試料を保存するための冷蔵庫が船内になく、最寄りの港に寄港してはサンプルを研究所にトラックでピストン輸送するはめになった。海賊の襲撃を避けるために、夜は島陰に避難することも、日本では考えられないことであつた。

もしも、最新の観測機器と優れた乗組員を誇る鹿大の練習船を15年前のように利用できたならば、調査データの精度が向上し、その期間も半分で済んだことであろう。

マラッカプロジェクトの今後

このマラッカプロジェクトは2003年まで続き、筆者の帰国後は、理学部の市川敏弘教授(海洋化学)がチームリーダーとして派遣されている。

今後このプロジェクトが、マラッカ海峡の環境研究の礎になることを願うとともに、わが鹿児島大学がマラッカ海峡の環境問題に貢献していることを誇りにしたい。(筆者は1998年5月から一年間マラッカプロジェクトに出張し昨年帰国した。)



研究室紹介



医学部公衆衛生学講座



教授 秋 葉 澄 伯

当教室は1966年に脇阪一郎名誉教授によって開設され、平成4年に私が二代目の教授として着任しました。脇阪先生がやってこられたことを参考にさせていただきながら、こちらの方もまだ手探りの状態で進めているものが少なくないのが現状です。主な研究テーマは、がんの疫学、環境疫学、長寿科学などです。以下、それぞれのテーマの主な研究を簡単にご紹介します。

喫煙関連がんのリスクに関連する遺伝子多型：肺がん、食道癌、膀胱癌などについて鹿大第一外科・泌尿器科、国立南九州療養所、県立薩南病院などのご協力を得て藤山千早講師を中心に研究を進めています。郡山（旧姓藤山）講師は成人T細胞白血病（ATL）やEBウイルス関連胃癌などウイルス関連癌の疫学調査にも取り組んでいます。写真で私の横に座って写っているカラスキーヤ博士は私の留学時代からの友人で、ハーバード大学の宿舎に住んでいた頃から家族ぐるみのお付き合いをしています。彼は現在、バジェ州立大学（鹿児島大学の姉妹校）で疫学の教授を務めていますが、近々、バジェ州の保健部部長を兼務する予定だと言っていました。今回は、バジェ州での共同研究の打ち合わせのために来日してくれました。

水銀汚染とその影響：錦江湾で捕れる魚介類の一部には水銀の汚染が有り、出荷規制がされていますが、これは錦江湾の海底にある“たぎり”と呼ばれる桜島火山の火口から多量の水銀が出てくるためと考えられています。水銀は魚食とともに摂取されますが、成人では健康に影響を与えません。しかし、胎児では比較的低いレベルの曝露で影響が出る可能性があり、安藤助手を中心に、鹿大産婦人科の御協力を得て調査を進めています。

桜島火山活動の健康影響：これは前の主

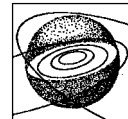
任教授、脇阪先生の研究テーマでした。現在は新倉礼子助手を中心に、国立環境研新田裕史先生、国立がんセンター研究所がん情報研究部山口直人部長、鹿児島県保健福祉部のご協力を得ながら少しずつ研究を進めているところです。

紫外線の影響：P & Gや神戸大学皮膚科市橋教授との共同研究を行って、秋田と鹿児島で紫外線が皮膚に与える影響を調べています。これも新倉礼子助手が中心になって取り組んでいます。

高自然放射線地域住民（中国、インド等）での健康影響調査：世界中には自然の放射線レベルが高い地域がいくつか知られていますが、居住人口が多く疫学調査が可能なのは中国の広東省陽江地域とインドケララ州カルナガパリ地域です。10年前から菅原努先生（元京都大学医学部長）の研究班に加えていただき陽江地域での死亡追跡調査をお手伝いしてきました。現在、中国での主な研究成果を論文にまとめて国際誌に投稿中です。

高齢者の健康調査：鹿大第3内科が1991年からやっておられる笠利町での高齢者検診に協力させていただき、血清脂肪酸レベル、特に魚類に多く含まれる脂肪酸であるDHAなどと老人性痴呆などとの関連を調べています。この仕事は、安藤哲夫助手と第3内科から来ている大学院の白石先生が中心になって進めています。





「桜島」

研究生 鄭 美 京



鹿児島に来て間もない日のことだ。とてもよく晴れた日で「いい事でもありそうだな」という気持ちで目覚めた。学校にゆく仕度をして自転車の所に行った。「なぜ一晩でこのように自転車にほこりがたまったのか？」とつぶやきつつ自転車に乗って学校まで走った。2限目の授業が終って外に出ると雨が降ってもいないのに傘をさしている人がある。だがよく見ると確かに何か降っていた。それは桜島の灰だということをその時始めて知ったのだった。

私は鹿児島に来てちょうど一年になる。昨年ここに来て一番印象的なのは桜島だった。初めて見た火山だった。鹿児島は他の所にはない火山もあるし、温泉も多くていいなと思っていた。しかしある春の日、私は火山にもいいことばかりではないということが分った。それは灰だった。いつもいつもその灰は飛んで来た。家の隅々まで入って来て私を悩ませた。でも鹿児島の人々はそれに慣れているのだろうか、灰については平気だった。私は黒いその灰が嫌いだった。ところが空が青く晴れ上がったある日のことだ。ふと見上げた目の前に桜島の姿があった。たいへん堂々とした態度でその上にはそっと白い雲をのせている—まさに一幅の絵のようだった。私はたまらなく美しいその風景に感動していた。これが桜島の真実の姿だ、と思った。

桜島は鹿児島の象徴だと言っていい。それは鹿児島の人々の心の中で大きな位置を占めているに違いない。だから、私にとってわずらわしかった灰までもここでは皆、問題にしないのだ。ここを離れても私は桜島を忘れない。きっとこの灰までもなつかしく思い出すにちがいない。今日も桜島からは黒い煙が立ち上がっている。あいかわらず明日の朝もベランダと自転車はまっくろになっているだろう。

日本文化に深く浸して

大学院教育学研究科 羅 明 輝



大学に入って日本語を勉強してはじめて、日本文化というものに接することができた。もともと文学などがとても好きなので、日本語を勉強しているのだから、といっても、その頃の日本語力はまだ日本の文学作品を読む力にならず、ただひたすら先生のお教えにしたがって、中国語訳の日本文学作品や日本文化に関する書物を読み始めた。当時読んだ書物の中で一番印象深かったのは豊子凱氏が訳した『源氏物語』であると今でも時々思い出すことがある。一旦「もののあはれ」のような世界に入っていくと、もう二度と抜け出ることができなくなるのだろう。その後、日本語力が次第に増してくることによって、だんだんと自分の読む範囲も広がっていくようになった。読めるようになったら、もう止められない……。そして、「愛屋及烏（＝人を愛すればその人の家の屋根にとまるカラスまでもかわいい）」と中国のことわざでも言っているように、自然と日本文化が好きになり、その文化を擁する日本人や日本を好きになった。大学卒業後、大学の日本語教師になり、そして偶然にある研修のチャンスを得、北京へ行って中国全土の日本語教師向けの日本語・日本文化研修コースに入って勉強できるようになった。一年後の研修修了時、「『もののあはれ』の中国語訳について」と題する修了論文を提出した。実を言うと、その時の自分にとっては日本文化についてもうすっかり分かりきっているような気分であった。

時間の経つのが実に早いものである。鹿児島に来てもう一年半。北京研修の時の自分のことをもう一度振り返ってみると、いかに幼稚だったかなと照れくさくなってしまう。鹿児島大学と私が勤めていた中国の湘潭大学は十何年前にすでに姉妹大学に結成されていて、鹿児島大学に入った時点から、もうまるで自分の家に帰ってきたような感じでいっぱいである。みんな非常に親切に應對してくださって、とはいっても、外国人扱いを受けた記憶もまったくない。国語科にしながら、日本語のセンスも直接実感できるし、たまには国語科の日本人同級生の方々と一緒に鹿児島の焼酎でも一杯味わいながら、鹿児島人の、いや、鹿大人の「もののあはれ」感覚を身に付けることもできる。本当に充実した毎日を送っていて、日本にきてよかったとつくづく思っている。これからももっと自分をこのすばらしい日本文化に深々と浸してみたい。

サークル紹介

鹿児島大学学友会ロボット研究会

工学部 3年 山口 泰 正

ロボット研究会は、主にNHKロボットコンテストへ出場することを目的として活動しています。部員は現在10名と少数ですが、活気のある明るいサークルです。

1年間の流れとしては、4～6月にかけてロボットのアイデアを練り、書類を提出。書類審査に合格するとロボットの製作に入ります。12月にある二次審査に合格すると、3月に行われるロボットコンテストに出場します。過去に優勝1回、準優勝1回、優秀賞1回、アイデア賞2回の優秀な成績を残しています。

ロボットを作る過程で、互いの意見がぶつかったりしますが、より良いロボットを作ろうとする意気込みの表われであると思っています。様々な過程を経て、1つのものを全員で作り上げた時の喜びは、格別なものがあり、それまでの苦労を忘れさせてくれます。

工学部機械工学科棟で主に活動をしています。ロボットに興味のある方、是非見学にいらして下さい。



鹿児島大学学友会弓道部

教育学部 3年 山田 勝 義

現在、我々鹿児島大学学友会弓道部部員は、男子21名・女子24名で構成されており、部長中村祐三先生（工学部助教授）、眞島巳則先生（範士八段）の御指導のもと、日々の練習に汗を流しています。

弓道の一番いいところは、その弓道自体に熱中できるところである。僕の経験をここで述べさせてもらおうと、雨の日も、風の日も、雪の日も毎日練習をしていました。何が、ここまでさせるかということ、その練習自体が非常に楽しかったからです。長く続けていくための秘訣としては、やはり楽しさ・面白さは絶対必要な物です。その点、弓道は十分にその要素を持っています。また、弓道のいいところといえば、男であろうが女であろうが、初心者であろうが経験者であろうが、大学から弓道をはじめても十分やっていけるころだと思います。

昨年の公式戦での結果は、男子が九州学生弓道選手権大会において、団体四位、女子は南九州学生弓道選手権大会で、団体優勝、インカレで団体四位でした。ここ暫く、鹿大弓道部は低迷期が続いていましたが、ここ二、三年はある程度の成績を残せるようになってきました。しかし、昔の鹿大弓道部は「勝ってあたりまえ。」という時代がありました。偉大な先輩方に負けないうにもっともっと頑張っていきたいです。

是非、一度弓道場へお越しになって下さい。



鹿児島大学にはこんなサークル(部・同好会) があります

平成12年2月1日現在

文 化 系				体 育 系			
NO	部 名	NO	同 好 会 名	NO	部 名	NO	同 好 会 名
1	フロイデ・コール	1	音 楽 鑑 賞 会	1	柔 道 部	1	ゴ ル フ 同 好 会
2	吹 奏 楽 団	2	フォークソング同好会	2	剣 道 部	2	ワンダーフォーゲル同好会
3	ポリフォニー・コール	3	キ ッ ク ス	3	空 手 道 部	3	ス ケ ー ト 同 好 会
4	演 劇 部	4	マンドリンクラブ	4	弓 道 部	4	サ ッ カ ー 同 好 会
5	管 弦 楽 団	5	ファイブエイセス	5	ボ ク シ ン グ 部	5	軟 式 野 球 同 好 会
6	ハーモニカバンド	6	映 画 研 究 会	6	少 林 寺 拳 法 部	6	ア イ ス ホ ッ ケ ー 部
7	クラシックギタークラブ	7	石 笑 会	7	合 気 道 部	7	モ ー タ ー サ イ ク ル 同 好 会
8	ジャズバンド	8	ユースホステル同好会	8	サ ッ カ ー 部	8	軟 式 庭 球 同 好 会
9	邦 楽 部	9	将 棋 愛 好 会	9	ラ グ ビ ー 部	9	ウ ィ ン ド サ ー フ ィ ン 部
10	児童文化研究会	10	イ ゼ ム チ	10	ハ ン ド ボ ー ル 部	10	空 手 同 好 会
11	写 真 部	11	奇 術 同 好 会	11	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	11	ソ フ ト ボ ー ル 同 好 会
12	美 術 部	12	SF&ミステリー研究会	12	バ レ ー ボ ー ル 部	12	硬 式 庭 球 同 好 会
13	E . S . S .	13	野 外 活 動 研 究 会	13	硬 式 野 球 部	13	卓 球 同 好 会
14	放 送 研 究 会	14	第 三 文 明 研 究 会	14	準 硬 式 野 球 部	14	極 真 空 手 同 好 会
15	マルクス主義研究会	15	釣 研 究 会	15	卓 球 部	15	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 同 好 会
16	社会科学研究会	16	考 古 学 研 究 会	16	バ ド ミ ン ト ン 部	16	バ レ ー ボ ー ル 同 好 会
17	法 学 研 究 会	17	海 洋 研 究 部	17	軟 式 庭 球 部	17	ス キ ー 同 好 会
18	教育科学研究会	18	天 文 同 好 会	18	硬 式 庭 球 部	18	ス ポ ー ツ 愛 好 会
19	哲 学 研 究 会	19	百 人 一 首 同 好 会	19	水 泳 部	19	中 国 武 術 研 究 会
20	中国・ソ連研究会	20	ニューミュージック愛好会	20	漕 艇 部	20	自 転 車 競 技 同 好 会
21	学生心理学研究会	21	スクリーンポップスバンド	21	ヨ ッ ト 部	21	球 技 同 好 会
22	地 理 学 研 究 会	22	コントラクトブリッジクラブ	22	カ ッ タ ー 部	22	パ ワ ー ス ラ イ ド (イ ン ラ イ ン ス ケ ー ト)
23	海 外 研 究 会	23	マイクロコンピュータ研究会	23	陸 上 競 技 部		
24	理 化 学 研 究 会	24	障害児保育研究会	24	山 岳 部		
25	海洋生態研究会	25	ウォークキャンプ愛好会	25	体 操 競 技 部		
26	生 物 研 究 会	26	漫 画 同 好 会	26	馬 術 部		
27	社会医学研究会	27	野 鳥 研 究 会	27	自 動 車 部		
28	探 険 部	28	地域子ども会研究会	28	航 空 部		
29	園 芸 研 究 会	29	映 像 研 究 会	29	サ イ ク リ ン グ 部		
30	茶 道 部	30	鹿児島ショパンの会	30	舞 踏 研 究 部		
31	書 道 部	31	I . S . A .				
32	華 道 部	32	ウミガメ研究会				
33	新 聞 部	33	小原流華道研究会				
		34	エコロジー研究会				
		35	大川隆法著作権研究会				
		36	建築&デザイン同好会				
		37	ク イ ズ 研 究 会				
		38	ゴールドフィッシュダイビングクラブ				
		39	ア ニ メ 研 究 会				
		40	TOEIC・TOEFL研究会				
		41	口 ボ ッ ト 研 究 会				
				文化系サークル			
				(部 33サークル			
				同好会 41サークル		計 74サークル	
				体育系サークル			
				(部 30サークル			
				同好会 22サークル		計 52サークル	
						合計 126サークル	

新任教官紹介

平成11年12月1日から平成12年3月1日までの間に就任された教官（講師以上）は次のとおりです。

こみや せつろう
小宮 節郎
医学博士

（医学部教授）



（生）昭和27年5月13日
（学）久留米大学大学院医学研究科
（前）久留米大学医学部整形外科 助教授
（担）整形外科学講座

学問の底上げ・高度化を行います。先見性をもって疾患の本質に迫る遺伝子情報レベルの研究を行い、治療への応用性を目指します。

さかた りゅうぞう
坂田 隆造
医学博士

（医学部教授）



（生）昭和24年9月7日
（学）京都大学医学部医学科
（前）熊本中央病院心臓血管外科医長
（担）外科学第二講座（心臓血管外科）

各分野のエキスパートを育てつつ、開心術については5年以内に年間300症例以上の手術ができるようにしたいと考えております。

わたなべ むつみ
渡邊 睦
博士（工学）

（工学部助教授）



（生）昭和31年6月20日
（学）東京大学大学院工業系研究科修士課程
（前）佛東芝 関西研究センター 主任研究員
（担）人工知能基礎・知識工学・応用数学Ⅰ・画像情報工学

画像処理・認識技術の研究開発と後進の育成に微力を尽したいと思いますので、宜しくお願いいたします。



玉里文庫「洋学関係資料」のマイクロ化・電子化（CD-R）を行いました

附属図書館では、電子図書館的機能の充実・強化の一つとして本館所蔵の貴重資料「玉里文庫」のマイクロ化・電子化を行っています。玉里文庫は島津久光及び玉里島津家の旧蔵書であり、内容は久光の自筆本をはじめとする玉里島津家の編輯本、薩摩関係史誌類、和漢書の写本類が多く、さらに幕末洋学関係翻訳書類も少なくありません。これまで平成8年度に「沖縄関係資料」、平成9年度に「薩摩藩関係資料」平成10年度に「国書と絵図関係資料」のマイクロ化・電子化（CD-R）を行いました。平成11年度は、教育改善推進費（学長裁量費経費）により、「洋学関係資料」137点（585冊）のマイクロ化・電子化を行いました。今後、未整理資料分を含め貴重資料の電子化を推進しインターネット上での提供の早期実現をめざしています。

CD-Rは検索ソフト付のWindows版とMacintosh版があり、現在のところ利用する場合はパソコン単体による利用形態となっています。

玉里文庫についての問い合わせ先
附属図書館情報サービス課
資料サービス係
内線：7435、7436

■編集後記

春花の季節、つい先日大空へ羽ばたく喜び一杯の卒業生を送ったばかりです。少しばかり寂しくなった鹿大キャンパスも21世紀に羽ばたく準備の為に多くの新入生を迎え、また賑やかになりました。

今号では、新入生を迎えるにあたり「2000年入学に寄せて」と題する特集を組みました。新入生諸君は、学長をはじめ各部局の代表者から寄せられたメッセージを噛みしめて、これから始まる鹿児島大学での学生生活をエンジョイするとともに、21世紀へ向かって大空へ羽ばたく準備を始めて下さい。

本号の発刊に際し、ご多忙にもかかわらず原稿をお寄せ頂きました皆様に厚く御礼申し上げますと共に、表紙のデザインをお引き受け頂きました教育学部の小江和樹先生、および企画・編集・製作にご尽力頂いた広報委員の方々、並びに事務担当の庶務課原本邦廣専門員に心から感謝いたします。

（水産学部教授 上田 耕平）

利用者用のパソコンが増強されました

図書館内に設置している利用者用パソコンが、次のとおり増強されました。

・中央図書館

蔵書検索用パソコン 11台から12台
 多目的用パソコン 11台から16台
 （1階マルチメディア端末室）

・桜ヶ丘分館

蔵書検索用パソコン 4台から3台
 多目的用パソコン 5台から7台

・水産学部分館

蔵書検索用パソコン 1台から2台
 多目的用パソコン 4台から7台

蔵書検索用パソコンは、本学の蔵書検索のみならず、インターネットを利用した他大学（機関）の蔵書検索用パソコンとしても利用できます。また多目的用パソコンは、従来のインターネット利用ソフトや文書作成ソフトに加えて、各種のソフトを搭載しており、パソコン利用の幅が広がります。

利用に関する問い合わせ先
附属図書館情報サービス課
参考調査係
内線：7440、7441

本誌に関するご意見・ご感想を下記までお知らせください。

電話 099 - 285 - 7025

FAX 099 - 285 - 7034

■広報委員会委員

上田耕平（委員長・評議会）

北野元生（評議会）

古川一男（補導協議会）

林 国興（共通教育委員会）

上村浩明（法文） 池川 直（教育）

根建心具（理） 榮鶴義人（医）

島田和幸（歯） 宮崎智行（工）

田代正一（農） 安藤清一（水産）

吉田義弘（医）

●鹿大広報 第153号

平成12年4月1日発行

●編集・発行

鹿児島大学広報委員会

住所：〒890 - 8580

鹿児島市郡元1丁目21番24号

電話：099 - 285 - 7025

FAX：099 - 285 - 7034

印刷：斯文堂(株)